

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これからの時代を担う子どもたちに必要な能力としてOECDが定義付けている「キー・コンピテンシー、つまり、主要能力〔単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応することができる力（具体的には、①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力、②多様な社会グループにおける人間関係形成能力、③自立（律）的に行動する能力）〕及びその考え方を先取りして定められたとも言える新学習指導要領において示されている「生きる力」の重要性を踏まえ、校訓「自主自立・共生・創造」のもと、総合学科の特色を生かして、自己を見つめなおし志を持って自己を実現できる生徒を育成する。具体的にめざす事柄としては、以下の4点である。

- ・キャリア教育を通して、将来社会の一員として活躍しようとする姿勢の育成
- ・生徒の希望する進路や興味・関心に応え、基礎的な学力を定着・伸長させるとともに、将来を考えて積極的に選択できる選択科目とカリキュラムの設定
- ・生徒自らが主体性を持って思考し判断し、自分の考えを表現・発表できる授業の実現
- ・人間関係を豊かにし、多様な人々の立場の違いを認め合い、協働して学び合いながら実社会に参画・貢献しようとする態度の育成

2 中期的目標

1 生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、「わかる授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 平成25年度に設置した「授業力向上プロジェクトチーム」を核として、また、授業アンケート結果を効果的に活用して、研究授業や研修等に組織的に取り組み、主体性を持って多様な人々と協力して学ぶことのできる「アクティブ・ラーニング」へと授業の質的な転換をめざし、「言語活動の充実」「グループワーク」「ICT活用」「反転学習」等を意識しながら授業改善についての研究を進める。

※第2回目の授業アンケートの全校・全教員共通の質問項目の肯定率が2項目とも70%を切る授業の延べ講座数（平成26年度延べ55講座）を毎年引き下げ、平成29年度のアンケートでは20講座以下にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業満足度」（平成26年度63.8%）を毎年引き上げ、平成29年度には80%以上にする。

(2) 家庭での学習習慣を身に付けさせるための取組みを推進する。

ア 「学習カレンダー」「朝の学習」等、これまでに取り組んできた事柄を充実させるとともに、他校の実践に学びながら、効果のある新たな取組みを検討する。

※生徒向け学校教育自己診断における「家庭での学習時間の充実度」（平成26年度43.9%）を毎年引き上げ、平成29年度には70%以上にする。

2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実

(1) 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等の内容とその成果を吟味し、より一層効果のあるキャリア教育の体系的な全体指導計画を確立する。

ア 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を核にして、キャリア教育の体系的な全体指導計画を検討する。

※生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育に関する充実度」（平成26年度77.7%）を毎年引き上げ、平成29年度には90%以上にする。

イ グローバル人材の育成に資するため、平成26年度以降の入学生については、海外修学旅行の推進を継続する。

※「海外修学旅行の満足度」に関するアンケートを実施し、平成27年度には実施学年の生徒・保護者ともに80%以上にし、その後毎年引き上げ、平成29年度にはともに90%以上にする。

(2) 科目選択ガイダンス機能を充実させ、科目選択のミスマッチを少なくし、進路希望と学力に応じた科目選択が実現できるようにする。

ア 教務部と進路指導部と担任団の連携を強化し、科目選択ガイダンス機能を充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」「科目選択の進路希望との適合状況」の肯定率（平成26年度それぞれ64.9% 65.2%）を毎年引き上げ、平成29年度にはともに85%以上にする。

(3) 確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する3年間の全体計画を充実させる。

ア 進路指導に関する3年間の全体計画を充実させるとともに、生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。

※学校教育自己診断における「進路指導に関する満足度」（平成26年度生徒68.1%保護者61.7%）を毎年引き上げ、平成29年度には生徒・保護者ともに85%以上にする。

※国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、過去3年間の平均〔102名〕を維持または増加させることをめざすと同時に、センター試験出願者数について、過去3年間の平均〔123名〕を維持または増加させることをめざす。

3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底

(1) いじめをはじめとする人権侵害事象が起こらないよう、すべての教育活動を通じて、生命や人権を大切にすることを徹底する。

ア 平成25年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。

※アンケート「安全で安心な学校生活を過ごすために」をより一層有効活用し、いじめ事象（それに準ずる事象を含む）発生件数0を維持する。

(2) カウンセリングマインドを伴った生徒指導を徹底し、安全・安心で居心地のよい学校環境づくりを推進する。

ア 共生推進教室をめぐる取組みを充実させるとともに、知的障がいや発達障がいをはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握に関する研修を行い、生徒に対してよりきめ細かい対応ができる体制を構築する。

イ より一層、教育相談室やSCの存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。

※学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」（平成26年度生徒57.6%保護者59.0%）を毎年引き上げ、平成29年度には生徒・保護者ともに77%以上にする。

(3) 遅刻を減らし、安定した生活リズムで学校生活を送れるようにするとともに、挨拶・服装・貴重品管理等を含め、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。

ア 他校の実践に学ぶなどして、効果のある新たな取組みを導入し、学校全体で遅刻減少のムードをつくる。

※年間延べ遅刻者数（平成26年度2,442件）を毎年引き下げ、平成29年度には1,000件以下にする。

イ 挨拶・服装・貴重品管理等を含め、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。

※生徒の生活規律・自己管理の力を測る指標を検討・構築し、その達成度を平成27年度には80%以上にし、その後毎年引き上げ、平成29年度には100%にする。

4 広報活動の充実

(1) 中学生や中学校、教育産業等に対して、総合学科のよさや学校の日常の教育活動を広報するための取組みを強化する。

ア 平成25年度に創刊した、タイムリーなニュースを満載した新しい広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて年2回ずつ継続発刊する。

イ 生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会、中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実を図り、参加者数の維持・増加をめざす。

※生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会への参加者数の合計（平成25年度約1,200名、平成26年度約1,240名）を、恒常的に、1,100（1,000+100）名以上に保つ。

※平成28年度選抜から一般選抜となるので、志願倍率（平成26年度前期選抜1.77倍、平成27年度前期選抜1.57倍）は低くなる傾向にあると予測されるが、平成28年度選抜以降、恒常的に1.25倍以上に保つ。

5 計画的な備品等の更新

(1) 新たな取組みに必要な備品等や老朽化してきた備品等を計画的に更新していく。

全項目の推進・充実によって

◆全員進級・全員卒業

入学した生徒すべてが、学校生活に困ることなく、安全・安心で居心地のよい学校生活を過ごし、希望する進路を実現して、卒業できるようにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○高校生活全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「芦間高校での高校生活に満足している。」の肯定率は、生徒が 80.9%、保護者が 87.6%であり、昨年度同様、概ね良好であると考えられる。 <p>○授業をはじめとする教科指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業は、分かりやすく、内容が充実している。」の肯定率は、教職員が 80.5%であるのに対し、生徒は 60.1%、保護者は 65.7%と、昨年度同様、差はあるが、保護者の肯定率が上昇している。 ・「魅力ある授業になるよう、指導方法の工夫・改善を行っている。」の肯定率は、教職員が 87.8%であるのに対し、生徒は 52.6%にとどまっております、その差は昨年度と同様に大きくなっている。 ・生徒の「家庭学習の充実度」は 48.8%と昨年度より上昇し、「自学自習ができるように、授業などで適切な指示を出している。」と回答した 73.2%（これも昨年度より上昇）の教職員の努力や工夫が生徒に届いてきていると考えられる。 ・これらの結果から、教職員の授業に対する努力や工夫が生徒の実態や気持ちにより一層フィットするよう、引き続き、様々な視点で検討をしていかなければならないと考えられる。 <p>○科目選択について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は、総合学科ということもあり、「選択科目が多く、それらを自分で選べるところが魅力である。」の肯定率は、生徒が 80.6%、保護者が 83.7%となっており、昨年度よりやや下降したものの、高水準は維持できている。 ・一方、「科目選択の指導は、きめ細かく適切に行われている。」の肯定率は、教職員が 95.1%であるのに対し、生徒は 63.3%、保護者は 65.2%にとどまっております、その差は昨年度より大きくなっている。 ・また、「自分の進路希望に合った科目選択ができています。」の肯定率は、教職員が 87.8%であるのに対し、生徒は 67.0%、保護者は 68.7%と、指導のきめ細かさと同様に差が生じている。 ・科目選択について、指導のきめ細かさや進路希望との合致等、ガイダンス機能の充実という点で、常に点検が必要であると考えられる。 <p>○進路指導やキャリア教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は、総合学科ということもあり、「産業社会と人間」を核として、キャリア教育の推進に力を注いでおり、「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の生徒の肯定率は 85.7%と、昨年度より上昇した。一方、『産業社会と人間』や『総合的な学習の時間』の授業を通して、自分の適性や将来についてよく考えるようになった。」の生徒の肯定率は 71.9%と、昨年度よりやや下降した。 ・「芦間高校の進路指導には満足している。」の肯定率は、生徒が 62.9%、保護者が 58.7%となっており、これを含めて、進路指導の充実に関する 4 項目〔項目番号は、生徒用が 11, 13, 17, 18、保護者用が 10, 12, 16, 18〕の肯定率の平均は、生徒が 54.4%、保護者が 56.6%にとどまっております、昨年度より下降した。 ・特に、「進路指導面で、家庭への連絡や意思疎通は、きめ細かく行われている。」の保護者の肯定率は 44.7%と、昨年度よりやや下降し、依然として 50%を切っている。「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」と回答した教職員が 82.9%（これは昨年度よりは上昇）いることと比べ、大きな隔たりが生じている。 ・進路指導については、より一層、生徒や保護者のニーズや期待に応えられるよう、情報発信の充実及び家庭との密な連携等を中心に、丁寧な対応が求められていると考えられる。 <p>○生徒指導、教育相談、人権教育等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導の方針は理解できる。」の保護者の肯定率は 67.6%、「生活指導面で、適切な指導や注意をしている。」の保護者の肯定率は 70.1%と、昨年度より下降しており、本校の生徒指導の方針や在り方について、より一層、保護者に的確に伝えていくことが必要であると考えられる。 ・「学校行事は、楽しく行えるよう工夫されている。」の生徒の肯定率は 61.5%と、昨年度より下降しており、学校側の工夫の在り方に課題が生じていると考えられる。一方、「生徒は、文化祭・体育祭などの学校行事に積極的に参加している。」の肯定率は、生徒が 76.8%、保護者が 90.8%と、昨年度よりやや下降したものの、昨年度と同程度の水準は維持できており、学校行事はある程度は充実していると考えられる。 ・「担任の先生以外にも、保健室や相談室等で気軽に相談することができることを知っている。」の肯定率は、生徒が 64.3%、保護者が 56.0%と、昨年度より上昇し、保健部や教育相談担当者会議の取り組みが功を奏してきており、教育相談体制のさらなる充実につながるものと期待できる。 ・「先生は、生徒の意見をよく聞いてくれる。」の肯定率は、教職員が 92.7%であるのに対し、生徒は 59.6%、保護者は 62.5%と、昨年度同様、差はあるが、生徒の肯定率は上昇している。また、「芦間高校は、カウンセリングマインドを取り入れた生徒（生活）指導を行っている。」の教職員の肯定率は 85.4%（これは昨年度より上昇）である。これらの隔たりの原因について引き続き研究するとともに、より一層、生徒の心や気持ちに寄り添った「カウンセリングマインドを伴った指導」を徹底しなければならぬと考えられる。 ・「生徒ロッカー鍵自己管理指導完了率」は 92.4%まで達したが、「自分の持ち物の自己管理をするように心がけている。」の生徒の肯定率は 63.0%であり、自己管理の必要性の意識を高めていく必要がある。 	<p>第 1 回 (H27.07.27)</p> <p>◎「生徒の学力向上」「授業力向上 特に アクティブ・ラーニング (AL) の推進」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が AL 型の授業で教科指導をすることにとっても意味がある。活発に意見交換できる。先生には質問しにくい、生徒どうしなら質問しやすいし教え合いができる。教師の力量が問われることになるが、AL はよい取り組みなので、積極的に進めてほしい。 ・AL の手法で、めざす学力を身に付けさせなければいけない。驚きと気付きと味わいといった体験的な内容が大切であり、これらを意識すると授業が活性化する。 ・授業では、生徒を引き付けることが大事であり、生徒の興味・関心を最大限集めるためには、教師の情熱と力量が必要である。 ・これからのたいへんな時代を生きていかなければいけない今の生徒たちには、これまでの教育をそのまま続けてはいけぬ。その重要性を教師がいかに自覚できるかが鍵。 <p>◎「生徒の家庭学習時間」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生・大学生の学習時間が減っている。世界的に見ても少ない。今の生徒は、家庭学習の計画を自分で立てることができない。「いつまでに～をする」という計画表を出させて、グラフにして視覚化を図り、担任がそれを活用して生徒指導に充てる。 ・家庭学習は、AL 型の授業と連動させてはじめて身に付けていく。 ・勉強合宿等、意味のある仕掛けを積極的に行えばよい。 ・定期考査の 2 週間前から家庭学習時間の調査をする等、実態把握調査をしてはどうか。 ・1 年生の早いうちから、インターシッ的な経験や大学見学といった仕掛けをして、働く意味や勉強する意味を分かって、意欲の向上を図ることが重要。 <p>◎「成績と進路実績との相関」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評定と大学合格との相関関係は、生徒への進路指導、教員の情報活用という観点で重要。評定平均値と大学の入試科目や入試方式とのマッチングという観点で、入試方式、つまり、AO 入試、一般入試、センター利用入試等で分けて分析すると相関が出やすい。 ・成績と進路先データと家庭学習時間との関係を調査すれば、必ずリンクするはず。 <p>◎「自己管理、スケジュール管理、PDCA 手帳」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCA 手帳等をスケジュール管理の導入やきっかけにしていけば効果はあると思う。 ・高校生活において必要となる、進級や卒業の要件、懲戒などの規程等を手帳に載せるのがよい。目標を立てるための取組みと合わせて、手帳の使い方を入学当初に教えるのもよい。PDCA 手帳等で、自分の夢に向かってスケジュール管理をさせるのもよい。 <p>第 2 回 (H27.12.19)</p> <p>◎「生徒の学力向上」「授業力向上 特に アクティブ・ラーニング (AL) の推進」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AL 型の授業は、生徒は生徒どうしで話し合いをしないといけぬので、ふだん話さない生徒とも話すようになり、様々な意味で前向きかつ効果的なよい授業だと思う。 ・昨今、「国際的な学力」とか「21 世紀型の学力」が必要だとよく言われていて、人間力、社会力、汎用的な学力等のコンピテンシーが重視されている。単なる知識理解ではなく、具体的に意見交換ができるとか、疑問が解消できるとか、主体的に発言できるとか、協働的な工夫ができるとか、こういった様々なことを考えてカリキュラムを組んでいくことが重要。授業の工夫、方法論という意味で、AL は重要。 <p>◎「いじめ事案」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表面上は仲よくしていても、実際にはツイッターなどで悪口を言うということが普通に起こっている。そのような生徒が相談できる人がいない場合が問題である。 ・大阪は認知件数が非常に低いと言われている。平成 25 年度に法制化されたが、まだまだ実態として生ぬるいというのが実状である。 ・いじめ事案については、実際、スマホ等の SNS の中ではなかなか防ぎようがない。スマホ等の SNS については、我々が気付かない世界の中で動いている。その意味で、SNS に関する教員研修や生徒向け講演会を充実させる必要がある。 <p>◎「遅刻回数減少対策」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休まず遅れず確実に来ることが大切。「遅刻することは一番ダメなことだ。」ということに関連する様々な情報とともに生徒に伝え、遅刻指導に尽力してほしい。 ・道徳教育の充実が盛んに叫ばれている。道徳教育の中では、考えさせることが大切で、そのための考える力、そして、規範意識の醸成が大事。遅刻についても、規範意識を植え付ける一環として、きちんと指導することが大事。 ・人として時間を守ることは基礎基本。他校の取組みを参考に遅刻指導の充実を。 <p>◎「生徒の心のケア」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命に関する事象がここまで増えているという実感は持っていなかった。音楽も含めて、芸術にはとてもよい効果をもたらすものがある。その意味で、ホスピタルアートの導入はとてもよいことだと思う。推進して、地域にも発信してほしい。 ・何年か前に命に係わる事象が起こり、そのことがきっかけで、ホスピタルアートのイベントを行い、生徒の心のケア、そして、荒れの克服を行った学校がある。これを参考に、命に係わる事象が起こらないようにという意味の、いわば、予防的効果を考えてほしい。 <p>◎「広報活動の充実」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校側の広報は中学校の進路指導の一環としてその一部分を担うものであり、決して公立高校の単なるアピールの場ではない。この学校に興味がある人、この学校を知ってほしい人が興味がない人、この学校を知らない人、このように分けて広報のことを考える必要がある。アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを総合的に整えて、これらを使って広報活動を行ってほしい。 ・ある高校は自校主催で保護者を集めて交流会を実施。周辺小中学校の P T A がそこへ来て、学校側が保護者に学校紹介をして積極的な活動をしている。参考にしてほしい。 <p>第 3 回 (H28.02.13)</p> <p>◎生徒の満足度や肯定率の規定要因が何かということを考えないといけない。</p> <p>◎実態が変わってきている生徒に対して、どうすれば生徒の変化に対応できるのかを考えなければならぬ。学校の対応が生徒の実態の変化についていけない可能性がある。</p> <p>◎総合学科は、目的意識をしっかりと持たせないと、主体的な生徒が入学してこない傾向にある。目的意識を持った生徒が入学してくるよう、尽力する必要がある。</p> <p>◎家庭学習時間の把握調査を行い、1 年生の早い時期に、どの大学をめざすかという目標を立て、個人指導を徹底的に行い、家庭学習のモチベーションを高めることが重要。</p> <p>◎コミュニケーションがうまく取れない子どもをしっかりと見てほしい。そういう点で、生徒の心のケアの充実に向けて、様々なアプローチをしてほしい。</p> <p>◎P T A という組織ではなく、これからは、P T C A として、地域の方々にも子どもたちと関わっていただけるようなしくみをつくってほしい。</p> <p>◎生徒と先生との関係をうまくつければ、生徒の気持ちも変わり、自己診断や授業アンケートの数値も上昇する。生徒が自尊感情を持てる学校づくりをお願いしたい。</p> <p>◎毎年、意味のある実践を行っている他府県の学校を訪問して、他校での実践を積極的に取り入れてよりよい方向に学校を導いている事例が身近にあるので参考にしてほしい。</p> <p>◎18 歳の選挙権等、青年前期の多感な時期に、社会的な責任を教えることが重要である。</p>

府立芦間高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1)「わかる授業」 「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善への取組みの充実</p> <p>ア 「授業力向上PT」を核に「アクティブ・ラーニング(AL)」へと質的な転換をめざした研究授業等の実施</p> <p>イ 授業アンケートを活用した授業改善の取組み</p> <p>(2) 家庭での学習習慣を身に付けさせるための取組みの推進</p> <p>ウ 「学習カレンダー」「朝の学習」等これまでの実績を含めた効果のある取組みの確立</p> <p>エ 家庭学習時間を教員が把握するためのシステムの確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業力向上に関する校内研修を実施するとともに、ALの先進実践校を視察する。</p> <p>・府教育Cの支援も受けながら、各教科が、「わかる授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をテーマとし、ALへと質的な転換をめざした研究授業に取り組む。</p> <p>イ・各教科が、授業アンケート結果に基づき、課題の分析、課題解決のための改善策の構築、その改善策の効果の検証を行い、HP等で公開する。課題解決のための改善策としては、「①言語活動の充実」「②グループワーク」「③ICT活用」「④反転学習」等を取り入れる。</p> <p>(2)</p> <p>ウ・学校経営委員会において、他校の実践についての情報を得ながら、家庭での学習習慣を身に付けさせるための効果的な取組みを引き続き検討する。</p> <p>・「学習カレンダー」「朝の学習」は各学年が確実に実施する。</p> <p>エ・家庭学習時間を生徒が記録し教員が把握するためのシステムの構築を検討する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・校内研修を1回以上実施。また、ALの先進実践校を2校以上視察。</p> <p>・各教科において、「AL推進者」を設けてALを推進し、ALへと質的な転換をめざした研究授業を実施(11月までに)。</p> <p>・生徒向け自己診断における「授業満足度」70%以上(平成26年度63.8%)。</p> <p>イ・各教科の取組みをHPで公開。各教科で左の①②③④のいずれかを実施。</p> <p>・第2回目授業アンケートの「全校・全教員共通質問項目」の肯定率が2項目ともに70%を切る授業の延べ講座数40講座以下(平成26年度55講座)。</p> <p>・第2回目授業アンケートの「質問項目3～9の評価の平均値」の全教員平均3.25以上(平成26年度3.17)。</p> <p>(2)</p> <p>ウ・他校の効果的な取組みの情報収集7校以上。学校として取り組む、家庭学習の充実に関するより一層の改善策の構築。</p> <p>・「学習カレンダー」「朝の学習」を各学年で実施。「朝の学習」は、1・2年で週2回以上実施、3年で週1回以上実施。</p> <p>・生徒向け自己診断における「家庭での学習時間の充実に関する2項目」の肯定率の平均55%以上(平成26年度43.9%)。</p> <p>エ・家庭学習時間を生徒が記録し教員が把握するためのシステムの構築。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・校内研修を3回実施済[講師：府立学校教諭、他県教委指導主事]。AL先進実践校を2校視察済[他県県立高校、他県私立高校]。(◎)</p> <p>・参考書籍を購入・輪読する等、各教科において、「AL推進者」を中心にAL推進のための取組みを実施し、国社数理体芸英家工で研究授業を実施済。(○)</p> <p>・自己診断「授業満足度」は60.1%と下降。(△)</p> <p>イ・国社数理体英で①②を実施し、その取組みをHPで公開済。(○)</p> <p>・該当延べ講座数は55であり、そのうち、担当者が教諭の分は26である。(△○)</p> <p>・該当指標値は3.17であり、教諭のみの平均は3.20である。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ウ・他校の情報収集は7校実施済[府立学校、他県県立高校、他県私立高校]。(○)</p> <p>学力向上プロジェクトチームにおける改善策の検討を来年度に繋げていく。(△)</p> <p>・「学習カレンダー」は、全学年長期休業中に実施。「朝の学習」は、1年で週3回、2年で週2回、3年で週1回実施。(○)</p> <p>・自己診断「家庭学習充実度」は48.8%と上昇したが目標には届かず。(△)</p> <p>エ・学力向上プロジェクトチームにおいて、把握方法としてアンケートを考案し、試行実施済。来年度に繋げていく。(○)</p>
2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実	<p>(1)「産社」や「総学」等、キャリア教育の体系的な全体指導計画の検討</p> <p>ア 全体指導計画の検討・再構築</p> <p>イ 「協働」的要素の「産社」「総学」または「選択科目」への導入</p> <p>ウ グローバル人材育成のための海外修学旅行の推進</p> <p>(2) 科目選択ガイダンス機能の充実</p> <p>エ 教務部と進路指導部と担任団の連携の強化</p> <p>(3) 進路指導の全体計画の充実、保護者との密な連携</p> <p>オ 進路指導の全体計画の充実</p> <p>カ 家庭と学校との密な連携</p> <p>キ 生徒・保護者の希望やニーズに沿った進路実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア・体系的な計画を検討するための新組織を立ち上げ、学習意欲の向上や進路意識の高揚、科目選択の充実に確実につながる「産社」や「総学」の全体指導計画を検討する。</p> <p>イ・「協働」的要素を「産社」「総学」または「選択科目」へ導入できるよう検討をする。</p> <p>ウ・平成26年度以降入学生について、海外修学旅行の推進を継続する。</p> <p>(2)</p> <p>エ・科目選択の指導において、生徒や保護者が満足するよう、きめ細かく丁寧に指導する。</p> <p>・教務部と進路指導部と担任団の連携の強化により、自分が決めた選択科目(時間割)に対して生徒が自信と愛着をもてるようにする。</p> <p>(3)</p> <p>オ・確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する3年間の全体計画を充実させる。また、指定校推薦の新規開拓等、多様な進路先を確保できるよう努める。</p> <p>カ・生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。</p> <p>キ・進路指導システム「ASMサポートシステム」をより一層充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・新組織を立ち上げ、「産社」「総学」の全体指導計画の見直し・検討・再構築。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育の充実に関する2項目」の肯定率の平均82%以上(平成26年度77.7%)。</p> <p>イ・「協働」的要素の導入に向けての議論の進展状況。関係者による会議は、年間20回以上実施。</p> <p>ウ・「海外修学旅行の満足度」に関するアンケートを実施し、実施学年の生徒・保護者ともに80%以上。</p> <p>(2)</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率73%以上(平成26年度64.9%)。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における「科目選択の進路希望との適合状況」の肯定率73%以上(平成26年度65.2%)。</p> <p>(3)</p> <p>オ・学校教育自己診断における「進路指導の満足度」生徒・保護者ともに73%以上(平成26年度生徒68.1%保護者61.7%)。</p> <p>カ・保護者向け学校教育自己診断における「進路指導面での家庭との連携のきめ細かさ」の肯定率55%以上(平成26年度45.9%)。</p> <p>キ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、過去3年間の平均[102名]を維持またはより増加。</p> <p>・センター試験出願者数について、過去3年間の平均[123名]を維持またはより増加。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・新組織は立ち上げ済。「産社」「総学」の内容再構築に向けて議論をし、模擬選挙等の新内容を導入済。(◎)</p> <p>・自己診断「キャリア教育充実度」は78.8%とやや上昇したが目標には届かず。(△)</p> <p>イ・会議は約60回実施。職業インタビューのグループワーク化等、「産社」の内容に「協働」的要素をより一層導入し実施済。(◎)</p> <p>ウ・生徒アンケートでの満足度95.0%。保護者アンケートは未実施。(○)</p> <p>(2)</p> <p>エ・該当学年担任団が教務部と連携し、丁寧な科目選択ガイダンスを実施。自己診断「科目選択指導適切度」は63.3%とやや下降。(△)</p> <p>・該当学年担任団が進路指導部等と連携し、ミスマッチを防ぐ指導を実施。自己診断「科目選択進路希望適合度」は67.0%とやや上昇したが目標には届かず。(△)</p> <p>(3)</p> <p>オ・該当学年担任団が進路指導部と連携し、丁寧な進路指導を実施。自己診断「進路指導満足度」は生徒62.9%保護者58.7%と下降。(△)</p> <p>カ・該当学年担任団が進路指導部と連携し、充実した保護者対応を実施。自己診断「進路指導家庭連携度」は44.7%とやや下降。(△)</p> <p>キ・「ASMサポートシステム」をより一層充実させて、生徒の進路実現に向けて指導。国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計は69名。(△)</p> <p>・センター試験出願者数125名。(○)</p>

府立芦間高等学校

<p>3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底</p>	<p>(1) 生命や人権を大切にす精神の徹底 ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた学校運営 (2) カウンセリングマインドの徹底等、安全安心居心地よい環境づくり イ 生徒の「困り感」の把握の徹底等、きめ細かい対応ができる体制づくり ウ 相談室の存在の周知等、教育相談機能全般の充実 (3) 遅刻減少等、生活規律・自己管理の力の向上 エ 効果のある新たな遅刻対策の導入 オ 挨拶・服装・貴重品管理等、生徒の生活規律・自己管理の力の向上</p>	<p>(1) ア・平成 25 年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。 (2) イ・校内研修を行い、障がいのある生徒をはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握や解決により一層尽力する。 ウ・より一層、教育相談室やＳＣの存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。 (3) エ・遅刻減少対策について、他校の実践の情報収集をするなどして、効果的な取組みを引き続き検討する。 オ・挨拶・服装・貴重品管理等を含め、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。</p>	<p>(1) ア・「学校いじめ防止基本方針」に基づいた学校運営ができていないか否かについて「いじめ防止及び対策委員会」で評価。 ・教育相談担当者会議と連携して、校内で啓発に資する取組みを実施。 ・アンケート「安全で安心な・・・」への生徒の記述状況〔いじめ事象（それに準ずる事象を含む）発生件数 0〕とその内容に対する対応等。 (2) イ・校内研修を 1 回以上実施。 ウ・外部人材活用（ＳＣ等）の拡充に向けた具体的な検討の進捗状況。 ・学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」生徒・保護者ともに 65%以上（平成 26 年度生徒 57.6%保護者 59.0%） (3) エ・他校の効果的な取組みの情報収集。学校として取り組む、遅刻減少に関するより一層の改善策の構築。 ・生徒会等、生徒自らが企画する、遅刻減少に向けた取組みの実施。 ・年間延べ遅刻者数 1,950 件以下（平成 26 年度 2,442 件）。 オ・生徒の生活規律・自己管理の力を測る指標を検討・構築し、その達成度 80%以上。</p>	<p>(1) ア・ネットいじめ事案が 1 件生起。「防対委員会」で協議し、該当生徒等へのケアや指導を実施し、現在落ち着く。未然防止の観点で学校運営の再点検を要する。(△) ・全学年、HR において、府教委 8 月発出の「携帯・ネット上のいじめ等防止資料①～⑥」を用いて、ネットいじめについて啓発 HR を実施済。(○) ・安安アンケートでは特に問題となる事案はなし。それとは別に、上述のとおり、ネットいじめ事案が 1 件生起。(△) (2) イ・校内研修を 4 回実施済〔講師：心療内科医師、芸術家、アートデザイナー、元府立高校長、府教育 C 指導主事〕。(◎) ウ・心療内科医師及びアートデザイナーと提携連携済。(◎) ・自己診断「教育相談機能充実度」は生徒 62.0%保護者 59.3%と上昇したが目標には届かず。(△) (3) エ・他校の情報収集は 4 校実施済〔府立学校、他県立高校〕。改善策の検討が喫緊の課題であり、来年度に繋げていく。(○) ・生徒自らが啓発ポスターを作成。(○) ・年間延べ遅刻者数は 2,344 件で、昨年度に比べて約 100 件減。(△) オ・「生徒ロッカー鍵自己管理指導完了率」は 92.4%。(○) 自己診断「貴重品等自己管理意識度」は 63.0%。(△)</p>
<p>4 広報活動の充実</p>	<p>(1) 総合学科のよさや学校の日常の教育活動の広報の強化 ア タイムリーなニュース掲載の新広報誌の年 2 回継続発行 イ オープンスクール等や中学校等教員対象説明会の内容の充実</p>	<p>(1) ア・平成 25 年度に創刊した、タイムリーなニュースを満載した新しい広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて年 2 回ずつ継続発行する。 イ・生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会、中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実を図る。</p>	<p>(1) ア・新しい広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて年 2 回発行。 イ・生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会への参加者数の合計 1,100 名以上（平成 26 年度約 1,240 名）。 ・オープンスクールや学校説明会への参加者を対象としてアンケートを実施し、肯定的回答 90%以上。 ・中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実と参加者数の維持・増加（平成 26 年度中学校教員約 50 名、塾教員 30 名強）。 ・志願倍率 1.25 倍以上（平成 27 年度前期選抜 1.57 倍）。</p>	<p>(1) ア・アクティブ・ラーニング等、授業内容・授業方法等の充実に関する内容を盛り込み、8 月下旬と 12 月上旬の計 2 回発行し、関係中学校や関係塾に送付済。(◎) イ・オープンスクールや学校説明会への参加者数の合計は約 1,070 名。一般選抜への移行という厳しい状況の中にあって、健闘したと言える。(○) ・生徒の肯定率 99.9%、保護者の肯定率 100.0%。(◎) ・アクティブ・ラーニング等、授業内容・授業方法の充実に関する事柄を説明内容として盛り込んだ。参加者は、中学校教員約 45 名、塾教員約 35 名とほぼ昨年度の状況を維持。(◎) ・志願倍率は 1.22 倍。一般選抜への移行という厳しい状況の中にあって、健闘したと言える。(○)</p>
<p>充実によって</p>	<p>◆全員進級・全員卒業</p>	<p>◆入学した生徒すべてが、安全・安心で居心地のよい学校生活を過ごし、進級・卒業できるようにする。</p>	<p>◆在校生の全員進級・全員卒業</p>	<p>◆1 年生で 1 名退学 1 名転学。2 年生で 2 名退学 2 名転学。3 年生で 1 名退学。未卒業（科目履修生）で 1 名退学。(△)</p>